

第一章

序章

A. 背景

コミュニケーションの性質となる言語は国の文化において礼儀や習慣が違うことによって、社会文化における言語行動のコントロールすることができる。例えば、ある会社の社員が自分の会社、特に上司と話すときに使う言葉及び話し方は社外、特に実家で使う言葉及び話し方とは違う。それは、コミュニケーションをたてるにはまず、相手、目的、場面（場所・時）、内容（礼儀や文化など）、道具（直接発話をするかメディアを利用して伝えるか）という要素が必要である。話し手がそれぞれのコミュニケーションのルールを理解すれば、コミュニケーション運用力を持っているといわれる。

しかし、上記の例では母語でコミュニケーションをするならば、重大な問題があまりないが、外国語でコミュニケーションをすれば、かなり異なる結果があり、重大な諸問題が発生する可能性が高い。インドネシアでの日本語の学習者は正式な日本語文法及び使い方しか知らないまま勉強し続ける。このことは日本語を正しく、自然に使えることをプラス面として認められることに対して、実際に日本社会に実用される日本語、また日本の社会に現れる日本語使用の現象に関する知識が足りないというマイナス面も避けられない。その結果、学習

者が日本語学習ということは単語や文法を覚え、理解し、正しく使えるということに集中してしまい、どんな表現がどんなときに適切かという社会言語学的運用を無視してしまう。例えば、相手になにかをしてもらうとき「一てください」という言い方は文法的に正しいが、社会言語学的に（特に要求や命令表現に関する）そうでない場合もある。そこで Canale & Swain、(1984)は、窪田 (2005)が引用したように、コミュニケーションの性質となる言語運用力を取得するには学習者が「文法的能力」「社会言語学的能力」「談話能力」「方略的能力」という四つの要素が必要である。

文法的能力は言語学習には一番古い要素だと言われている。語彙、形態論、統語論、音韻論などの文法的要素を習得することはこの文法的能力の中心である (Savignon, 1983 引用：窪田、2005)。話し手はある文が文法的に適切であろうかを判断したり、分析したりする能力を身に付けたら、文法能力を習得したと言われる。

社会言語学的能力では、言語を場面や発話の内容などのような文法能力にない要素に関する理解を習得しなければならない。話し手はこの社会言語学能力を習得すれば、「依頼」「謝罪」「賛辞」などに関するコミュニケーション能力適切に使用し、言語遣いも自然に感じられる。

談話的能力 (discourse) では、話し手が発話するとき、文型と機能と徒首尾一貫に表現できると期待される。この段階では、中・上レベルの文法を習得し、母国話者 (ネイティブスピーカー) とのコミュニケーション体験が多いと言われる。

最後の要素は方略的能力である。方略的能力は方策的能力とも言われ、コミュニケーションにおける問題を避けるために、非言語的のシンボルや口頭の能力を使用して、コミュニケーションを保護する。窪田 (2005) は Canale & Swain (1980) 及び Canale (1983) が述べたように、コミュニケーションに発生する問題の原因は、話し手が文法的能力、社会言語的能力やコミュニケーションにおいて期待しないことが起こってしまったからである。話し手はコミュニケーションのミスを起こさないように、ある言葉を外国語にどう言うべきか分からないときには、その言葉の定義を説明したりすることはその一つの例である。このことに対して、話し手と聞き手は互いに理解し、コミュニケーションを保護する努力がみえる。

日本語の学習者にとって、表層的に、いくつかの文型は依頼や命令表現だと理解し、対応できるが、実用には間接で、内容を判断する必要のある発話に対して、理解する困難があり、結果としてはそのような発話に対する対応も誤解が発生することに及ぼす。間接的な発話を理解できないことは上に述べたコミュニケーションの要素成分を完全に習得しなかったからである。次の作例を見てみよう。

- (1) 寒いから、窓をしめてください。
- (2) この部屋、寒くない？

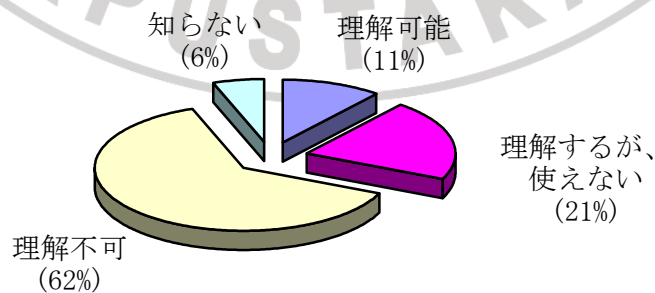
上記の実例に対して、様々な対応が生み出される。例文(1)では、「～てください」という文型を見れば、命令や依頼の表現だとすぐに判定できが、例文(2)の場合は、命令や表現の意味が表層に出ないので、聞き手は話し手の意思を把

握するために、深層的の意味を把握する能力が必要である。そうでなければ、例文 (2) はただの疑問文として対応されてしまう。

日本語では、間接的な表現が言語行動における丁寧さや倫理的の原理に関わる。特に、自分より目上の人への依頼表現は、社会に有効する道德の原理に及ぼす影響が強かるう。

本研究では漫画における日本語の間接依頼表現の表層及び使い方ということに焦点する。日本語の学習者は、日本人とコミュニケーションをするとき、日本人が発話した間接的な依頼表現の内容が把握できないため、誤解が発生し、コミュニケーションが成立できなくなる場合が多い。このことは人間関係を及ぼす影響があると考えられる。それに応えて、本研究の結果を生かして、コミュニケーションにおける摩擦が避けられると期待される。

それに参考するデータとして、東ジャワ州、スラバヤ市に滞在し、日本語を2年間以上学習する100人の日本語学習者に対して、日本語における間接依頼表現の理解に関するアンケートを配った。そのアンケートで集めたデータからは日本語の学習者、特に、スラバヤに滞在する日本語の学習者の日本語における間接依頼表現に関する理解能力が低い。詳しくは以下のグラフを見てみよう。



画像 1: 日本語の間接依頼表現に対する学習者の理解

上のグラフに見られるように、100人の中から約11%は日本語母語話者とのコミュニケーションが重大の問題がないため、日本語における間接依頼表現が理解し、適切に使えると判定できる。21%の解答者は日本語における間接依頼表現が理解できるが、適切に使えないこのグループにはほとんどコミュニケーションにおける非言語的の記号が把握できるが、コミュニケーションの運用力が足りないかということで適切に対応できない。62%の学習者は日本語における間接依頼表現が理解できない。このグループはコミュニケーションにおける発話を文法的能力に頼り、字義通りと異なる場合、含意的のメッセージが把握できない。さらに、残りの6%が日本語では間接依頼表現があるということは知らないと宣告した。上記のデータを見れば、日本語の学習者の間には、間接依頼表現に関する知識がかなり低いと判定できるのではないかと考えられる。

本研究では、先行研究を生かして、日本社会のコミュニケーション行動における日本語の間接依頼表現の表現法、特に表層及び使い方に関して記述する。いくつかの依頼表現文型、特に間接依頼表現の方は教材の範囲に入っているが、実際に社会で使われるものは教科書に載せられるものより多種類の表現があるのではないかと考えられる。

B. 研究課題

背景に記述したことに基づいて、本研究では次の研究課題を明らかにする。

1. 漫画における間接依頼表現法は表層的にどのような形をするのか。
2. 発話時の場所及び発話する相手によって、漫画における間接依頼表現はどのように使うのか。

3. 漫画における間接依頼表現法と日本語教科書における間接依頼表現法と
はどのような相違点があるのか。

C. 研究の目的

『漫画における日本語の間接依頼表現の表現法-発話内行為を中心して』というテーマをしている本論では、漫画における間接依頼表現の表層及び使い方を記述する。その上、本論では漫画における間接依頼表現と日本語教科書における間接依頼表現の相違点を明らかにする。

D. 研究の意義

本研究でまとめた結果を生かして期待されることは、次の通りに述べる。

1. 理論的に期待されること

本研究の結果は日本の社会における言語行動に関して社会言語学、特に、語用論的の一つの研究の材料として使用できる。さらに、理論的に日本語社会言語学及び日本語の語用論に貢献する成果があると期待される。

2. 実践的に期待されること

a. 日本語学習者に対して期待されること

本研究の結果は日本語の学習者に対して、大学や日本語教育学会で習得した知識を加え、実際に日本語母語話者とのコミュニケーション

ンを流暢に成立できると期待される。

表層的のタイプの記述を通じて、学習者は発話における文型を間接依頼表現として判定し、適切に対応されるという知識を習得すると期待される。なおさら、使い方の記述を通じて、学習者は間接依頼表現を適切に使用できる上、コミュニケーションにおける誤解や摩擦を避けられると期待される。

b. 日本語教育に対して期待されること

本研究でまとめた結果は日本語教育の一つの教材として扱われ、それに応じて、日本語の学習者は実際に日本人の個人や日本の社会と接触すれば、コミュニケーション能力を生かして重大な問題を抑えられると期待される。

c. 今後の研究に対して期待されること

社会に生きている言語は時代につれて変わり続けるため、談話研究をする必要がある。本研究でまとめた結果は今後の談話、特に語用論に関する研究の参考や渡り橋として扱われると期待される。

E. 用語の定義

ここでは本論のテーマに関わる言葉をはじめ、本論に採用される言葉に関して記述する。

1. 表層の形

表層の形というのは、深層（文の意味・内容）に関わるのではなく、すぐに見える文型そのものを指す。本研究において、表層の形というのは間接依頼表現だと判定される文型に関して述べられる。

2. 間接依頼表現の使い方

間接依頼表現の使い方に関しては、場面や相手によって適切な間接依頼表現の使い方のことを指し示す。

3. 間接依頼表現

間接依頼表現の意味を記述する前に、「依頼」という言葉の定義を記述してみる。Thesaurus Bahasa Indonesia(インドネシア語類語辞典), (2008: 321 - 322)では、「依頼・依頼する」という言葉は次の通りに定義される。

minta, meminta *v* berdoa, berharap, melamar, memaksudkan, membawa, membeli, membenar-benar, memesankan, meminang, memohon, mempersunting, menagih, menanyakan, menawar, mengajak, mengakibatkan, mengambil, mengharuskan, menghendaki, mengorek, mengundang, menimbulkan, mensyaratkan, menunang, menunggu, menyedot, menyita, menyuruh, merayu, merebut;

permintaan *n* ajakan, amanat, anjuran, aplikasi, desakan, doa, pengharapan, imbauan, klaim, lamaran, panggilan, permohonan,

petisi, pinangan, pinta, rayuan, rekes, seruan, suruhan,
tempahan, undangan

(依頼・依頼する) : 祈る、期待する、提案する、推薦する、
誘う、願う、説得する、請求、要求、進め、指令、条件の提
案、

日本語では、「依頼」のほかに、「要求」という言葉もしばしば使用される。「依頼」と「要求」との相違を明らかにするために、両者の意味を『新明解国語辞典第5版、1997』に書いてある通りに参考してみよう。「依頼」は「何かをしてもらうように、人に頼むこと」と定義され、「要求」は「必要なものとして、その実現（出現）を強く求めること」と定義される。

その定義から「要求」は「依頼」より強いニュアンスが感じられる。さらには、両者の意味を次の「命令」という言葉に対比してみよう。同じく、『新明解国語辞典第5版、1997』に書いてある通りに「命令」というのは目下の者に対して、自分の思うままに行動するよう、言いつけることである。

上記の定義に見られる通り、「依頼」というのは聞き手に直接強調せず「期待する、願う、物事を進める、誘う、要求する、請求する、説得する、要請する」の表現を伝えることである。つまり、間接依頼表現は話し手の望み通り間接的に聞き手を動かせる表現である。これは、命令の表現とは完全に異なり、聞き手の気持ちを優先することが重要なポイントである。

4. 漫画

本研究では、漫画という言葉は日本のコミックに指示する。『新明解国語辞典第5版、1997』では、漫画は「滑稽みを主とし、単純な線や色で描いた絵。〔社会諷刺・政治諷刺を含むものは、カリカチュア・戯画と呼ばれる〕」と定義される。

5. 日本語教科書

本研究に指示する日本語教科書というのはインドネシア全国に使用される日本語の教科書であり、国際交流基金の『日本語中級Ⅰ』及びスリーエーネットワーク（3A Corporation）が発行された『みんなの日本語Ⅱ』を対象として、データを収集する。『みんなの日本語』はインドネシアにある日本語教育の学会に最も使用される日本語教科書はであり、第Ⅱの教科書は間接依頼表現を含む会話文が多い。なお、日本語中級Ⅰより自然で軟らかい会話表現が多く、間接依頼表現はほとんど教科書における会話本文に見つけられる。その理由で、本研究では日本語中級Ⅰ及びみんなの日本語Ⅱという教科書を対象として、漫画における間接依頼表現のタイプと日本語教科書における間接依頼表現のタイプを対比する。

F. 本論文のアウトライン

ここでは、本論文のアウトラインに関して記述する。本論文は5章に分けられ、それぞれは次のように述べられる。

第一章：序章

本章では、本論文の研究の背景、研究課題、研究の焦点及び範囲、研究の目的及び意義、論文のアウトラインに関して記述される。

第二章： 基礎理論

本章では、発話行為、間接依頼表現及び日本語における間接発話行為の基本機能に関する先行研究などを記述される。本研究においては、先行研究の研究結果を生かして研究を行う。

第三章： 調査法

第三本章では、本研究に採用される調査方法に関して記述される。特に、データ収集のメソッドやデータ処理などに関して系統的に記述される。

第四章： データ分析

本章では、研究課題における諸問題を明らかにするために、収集されたデータの分析、いわゆる漫画における間接依頼表現の用例分析に関して記述され、本研究のまとめに導くことである。

第五章： 結論及び今後の課題

本章では、本研究の結果をはじめ、全てのプロセスに見つけたこと、今後の研究課題に関して記述。

